全国を飛び回る高知の寅さん！　間六口

高校時代に松竹新喜劇に入門したいと画策していた『間六口』ざん。ところが、父親にバレて飛ぶほど怒られて泣く泣く諦めたことが自身の「笑い」の原点になったかも知れないという。

高知県庁に勤務していた五十歳を少し過ぎた頃から、福祉施設などの訪問活動をはじめ、退職直前には年に五十回近くの出演依頼がくるようになっていた。フーテンの寅ざんそっくりの出で立ちで「バナナの叩き売り」等の売り物の口上芸や、色とりどりの衣装で登場する「爆笑漫談」を得意の演目としている。

現在は、地元イベントへの出演をはじめ、普段お笑いを見る機会のない中　山間地域での公演にも力をいれている。また、「高知の寅ざん」として全国より出演依頼があり、訪れた数二十七都道府県。あと、二十となる四十七都道府県全てを回ることを目標にしている。県外に行くときには、地元の観光パンフレットや特産品を手土産に、観光ＰＲも忘れない。特に「ぶしゅかん」は大人気だったそうだ。

「日本笑い学会」の講師も務め、「笑いと健康」をテーマにした講演活動も行うなど、ますます活動盛んな間六口ざんです。